

佳作

かえるとぼった

鹿児島県 鹿児島市立春山小学校一年 濱田 恭吾

ぼくは、かえるがすきです。なぜかというところ、つぶらなひとみやおおきなくちがかっこいいからです。よくずかんでしゃしんをみます。このなつやすみ、ぼくは、かえるをつかまえようとしていました。

なつやすみもはんぶんすぎた八月十二日、としのうぎょうセンターにいきました。てんきは、くもり。あめもふりそうで、かえるにあえるかもしれないとおもいました。

センターはしばふがひろがっており、小さなむしがたいたりよはっせいしていました。テンションのあがったぼくは、いもうとといっしょにしばふをはしりまわりました。そうしているうちに、ちやいろで四センチほどのげんきのないぼったをみつけました。ぼくはまえにもげんきのない虫にであったことがあります。それは、なつやすみにはいるまえにこ

うえんでみつけたピクリともしない大きなキリギリスです。やせいで生きていけるかしんぱいになり、いえにつれてかえりました。かつおぶしやたまねぎをやる時、すう日でかごの中ではねまわるほど、げんきになり、せわをする。ぼくのゆびをすさまじいあごの力でかんできました。とてつもなく、いたかったです。そのときのけいけんもあり、すこしこわかったのですが、ほうちすることはできず、ぼったをつかまえ、むしかごにいれました。

しばらくして、パラパラと雨がふりはじめたとき、ぼくは、ついにかえるとであいました。二、三センチくらいで小さかったですが、きみどり色があざやかで、はんぱじゃないジャンプ力でした。ぼくは、かえるがえものをおいかけて、はねているのにきづき、かえるのうごきをみきわめながら、おいつめていきました。手でつかまえるのがむずかしく、虫とりあみでつかまえました。もくひょうをたっせいできて、うれしかったです。

けっかてきに、そのかえるをつれてかえることはしませんでした。虫かごが一つしかなく、ぼったとかえるをおなじかごにいれるのは、きけんだとおもったからです。やはり、げんきのないぼったをおい

てかえることはできなかつたです。

かえるをあきらめたのは、ぼったのためだけじゃないです。よくかんがえると、かえるをかうじゆんびができていなかったからです。はえや虫をかえるのえさにするのだけど、いまのぼくには、それができないです。いきものをかうことは、そのいのちにせきにんをおうことだときいたことがあります。ぼくもそのとおりだとおもいます。

ほごしたばったは、くさをよくたべてすこしずつげんきをとりもどしています。しばらく、ぼったをみまもったあと、かんきょうをととのえて、またかえるとりにちょうせんしたいです。